



contents

- P1 入学式を終えて
 P2 卒業フォトギャラリー
 卒業生保護者インタビュー
 P3 ピックアップレポート
 数字でみるシュタイナー学園
 P4 子育てTips
 うちのおべんとう
 こどもと食べたい季節のレシピ
 SDGsへの取り組み

新たな世界の扉を開けた1年生



春らしい陽気の中、2022年度の入学式が行われました。いよいよ、待ちに待った子どもたちとの対面です。いざ子どもたちを前にすると、自然と背筋が伸びます。この子たちの先生になるのか…と不思議な気持ちで、じっくりと一人ひとりの顔を見つめました。

1年生の子どもたちは、肩にぐっと力が入り緊張した面持ちでしたが、名前を呼ばれるとみんな気持ちの良い返事ができていました。担任からの「入学おめでとう」の言葉にも、しっかり「ありがとう」と返すことができ、すっかり感心してしまいました。

そして、高等部からの歌「believe」のプレゼント。この子たちもきっと、この高等部の生徒たちのように立派に成長してってくれるだろう…未来の子どもたちの姿と重ねながら彼らの歌声を聞いていると、目頭が熱くなりました。



式が終わった後は、1年生にとって、そして私にとっても初めての授業です。子どもたちに自分の力で世界を広げていける人になってほしい。そんな願いを込めて、鍵のクッキーをプレゼントしました。

「この力があれば、自分の世界の扉を開けられるようになるよ。」

そして早速、黒板の閉じた面に描いた最初の「学びの扉」を、みんなの大きな声で開けました。

「扉よ、開け！」

そうして現れる、まっさらな黒板。そこに、子どもたちは一人ずつ「まっすぐな線」と「曲がった線」を描いていきます。黒板に描けることの嬉しさに顔が輝いている子、不安そうにチョークを見つめる子…それぞれの反応に、すでに個性が表れていました。描き終わった後の達成感に満ちたみんなの表情には、これからの学びもどんどん吸収してってくれるだろうという信頼感を覚えました。

私も先生としては同じ1年生。新しい世界との出会いがたくさんあります。その感動をこの7人の子どもたちと分かち合い、共に成長していきたいと思います。

そして、式に関わってくくださった皆さまへ、この場をお借りしてお礼申し上げます。

1年生担任：今泉 夏奈



Special feature

卒業

二〇二二年三月十九日
 高等部二期生の三人が、学園を巣立って行きました。

新たな旅立ちへ


 卒業生
 保護者インタビュー

parent interview

 卒業生保護者
 丹羽 米衣子さん

2002年長女が幼稚園入園のタイミングでシュタイナー教育と出会う。年長の時に幼稚園の親が中心となり「愛知シュタイナー学園を設立する会」を発足。2007年4月現学園の前身となる全日制フリースクール「芽ばえのクラス」をスタートさせ、長男入学。夫婦でどっぷり運営に浸かり、2022年3月に末っ子の次女が高等部を卒業した。



足かけ20年
 学園の成長とともに見てきたもの
 —こんな面白いことはない—

卒業を迎えて今どんなお気持ちですか？

清々しい気持ちです。長女が4歳の頃から足かけ20年間、ずっと関わり続けてきたものをようやく手放し、これから何をしようかなとわくわくしています。

のどかさんの進路は？

今はまだ決まっていませんが、自分のタイミングで何かを見つけるだろうと思っています。興味のあることに対して、可能ならば実際に足を運んで本物に触れさせてきました。彼女は今、韓国に興味があるのですが、行って自分の韓国への興味の強さを確かめたいと思っているようです。体感してみて「違うな」と感じたら、これだというものに出会うまで妥協せずに追求するのだろうと思います。

のどかさんの12年間を振り返るといかがですか？

毎日帰ってくると、学びの感動や出来事をよく話してくれました。6、7年生になると先生の授業のやり方に疑問を持つこともあり、そのフィードバックはありがたかったです。シュタイナー教育は1～8年生までを一人の担任が受け持つ事が理想ですが、立ち上げ間もない娘の学年では完璧な環境を用意できるわけではありませんでした。担任の先生が変わる中で、教員が決めて伝える時期から子どもが決めて動く時期への移行がうまくいかなかったように思います。8年間を一人の担任が受け持った、すぐ下のクラスを羨ましく思ったこともありました。

しかし、このクラスには5人の担任との様々な出来事が必要だったのだな、と卒業した今は思います。先生方はよく「シュタイナー教育のカリキュラムに助けられる」と言われるのですが、8年生劇での先生の的確な指導は彼らの成長の大きな助けとなりました。また、全国のシュタイナー学校から140名の高等部生が集う交流会に参加して上級生の姿を見る機会に恵まれ、その体験がスポーツフェスタや

文化祭、音楽祭を自分たちで企画する原動力になりました。12年生のときには、コーディネーターの堀田先生が最初の授業で「この1年でやりたいことを全部言って」と生徒に投げ掛けてくれ、そこで出た3人の希望を全て実現させてくれました。堀田先生には感謝しかありません。色々なことがありましたが、それらを乗り越えてきたからこそ今があるし、すべてが必要なことだったと思います。

のどかさんの成長を特に感じたのはいつですか？

12年生になった途端、大きな成長を感じました。この1年のために今までの11年間があったと思わせるほど、12年生は特別な学年だと強く感じました。自分たちでできることを的確に判断し、大人の力を借りるべきところでは素直に頼る姿がありました。下級生に恩返ししたい気持ちも湧いたようで、毎週一緒に鬼ごっこをした新2年生のクラス看板を卒業制作として木に掘りました。娘は私たち親にもできない数々のことを乗り越えてきました。そんな姿を見てきたからこそ、彼女の将来には安心感を持っています。

長年本当にお疲れ様でした。在校生の親に伝えたいことは？

運営の話し合いで帰宅が夜中になることもありましたが、娘が幼い頃は「なんでうちだけ？」と不満を言うこともありましたが、大きくなると帰りの遅い日には姉と晩御飯を作ってくれるようになりました。成人した長男はポロッと「おかんはすごい。」と言ってくれたりします。

「もうやめてやる！」と何度思ったことか。それでも、学期祭で子どもたちの成長を見たり、他校の高等部生の姿を見たことで踏みとどまることができました。子どもだけでなく親も先生と共に成長する姿を見てきました。それが楽しかったのだと思います。親が運営に参加して学校を良い方向に変えて行けるなんて、こんな面白いことはないです。是非おいに楽しんでね。



Pickup Report
01

7年生 数学 — 正の数 負の数 —

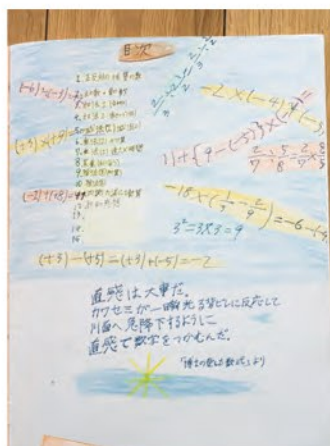
8年生担任 河合 裕児

7年生となり、自我の目覚め始めるこの時期に自分の立つ原点としての0を感じ取ります。そしてその0を基点として無限に広がる正と負の世界を学びます。

授業では、まず反対という概念を想起させます。高いに対して低い、重いには軽い、じゃあ取るの反対は？「取られる！」そこでトランプのカードを使いゲームをします。黒のカードはプラスそして赤はマイナスとして、取ることは加法、逆に取られることは減法として考え計算していきます。自分の点数を数えたら隣の人と勝ち負けを競います。「ハートの3とスペードの5だから、プラス2だ！」そこで1枚引いたらダイヤの4だったらどうなるでしょう？はじめは楽しくおこなっていましたが、やがて加法減法から乗法除法へと進むにつれ、だんだんみんなの顔に険しさが増してきます。

そして最後に四則の混じった計算問題へと進んでいきます。「掛け算から先にやるんだっけ？」「あれー？マイナスからマイナスを引くときは、どうするんだっけ？」「足し算に直して考えるんだよー！」はじめは解けていた問題が、スラスラとできません。それでも、1問1問やり直し繰り返し問題を解いていくことで、だんだんと答えが合うようになってきます。

数学は、直観が大事な学問です。ただその直観力を養うためには地道な努力が必要になってきます。毎日の少しずつの積み重ねが、ステップアップにつながってきます。このことを忘れずに日々頑張ってください。



Pickup Report
02

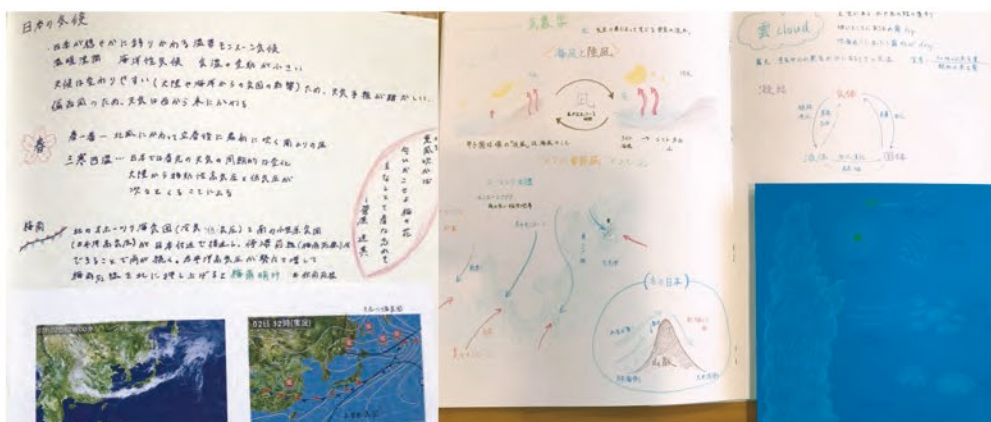
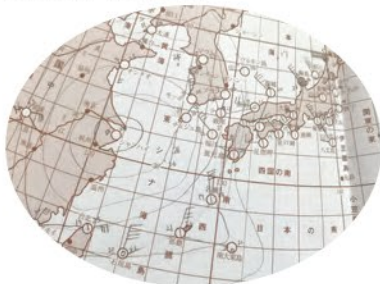
9年生 気象学 — 明日天気になあれ —

高等部コーディネーター：中山誠子

3学期の短いエポックで9年生は、風、雲、雨という身近な気象現象と、そこから発展して日本の気候の特徴を学びました。なぜ風は吹くのか、どんな雲から雨が降るのか、梅雨はなぜ雨が続くのか。話は次々とつながり、その合間に登場するのは、風や雨につけられた名前、季語、四字熟語など美しい言葉たちでした。

甲子園の浜風、春一番、三寒四温、「東風吹かば〜」、東北地方の山背「寒サノ夏ハオロオロ歩キ」、野分、小春日和、空っ風、伊吹おろし・・・フラスコやペットボトルの中に雲を作る実験では、断熱膨張を解除すると、できていた雲が「雲散霧消」しました。上空の雲の衛星画像がリアルタイムに見られるご時世ですが、各地の気象台と近海の船舶から送られる気象通報のラジオ放送を聞いて、天気図を書いてみました。正確な時刻やGPSでの位置情報がわかるのは当たり前、でも標準時の制定や暦の改訂も学んで、そんな基本情報も、種まきや航海の安全など切実な必要から、地道な観測を積み重ねて得られてきたことに気づきました。

デジタル情報を受け取るだけでなく、雲行きを眺め、風の湿り気を肌で感じて天気を予測し、地球の大気の循環の中に生きている実感を少しつかめるようになったでしょうか。目の前のものをじっと観察して学ぶことから、肉眼で直には見えない現象を見抜き、理解できることへと進んでいく高等部の学びです。



数字

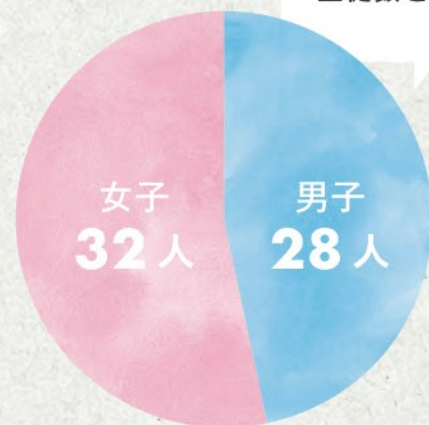


でみる

愛知シュタイナー学園

DATA
01

生徒数と男女比



2022年度の
新入生

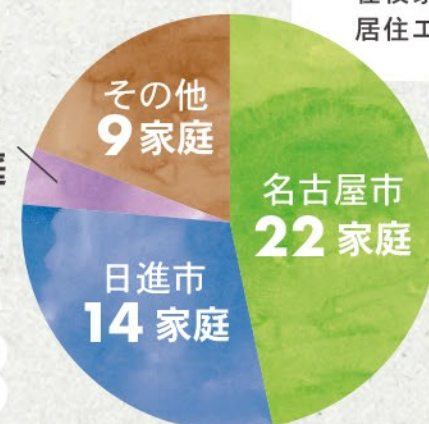
DATA
02



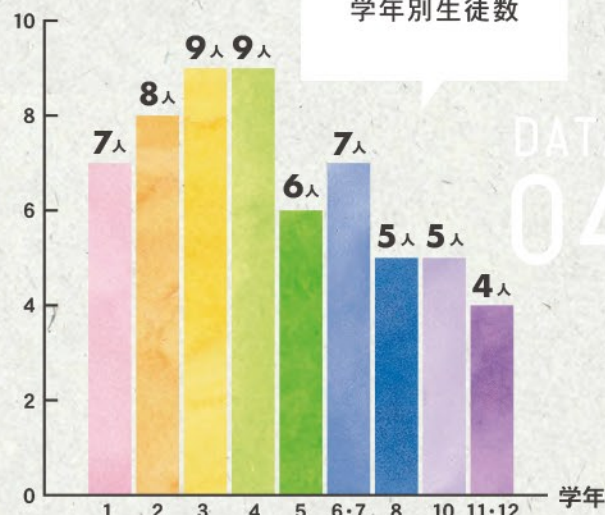
在校家庭の
居住エリア

岐阜県
2家庭

DATA
03



学年別生徒数



DATA
04

村上智先生の /

子育て

Tips

子育てに悩みはつきものです。親子の暮らしにまつわるあれこれをシュタイナー教育ではどのように考えるのか、毎回テーマを決めて取り上げます。幼児教育に長年携わり、現在学園の専科教員（彫塑）の村上先生に教えていただきました。

今回のテーマ

お絵かきに夢中で、就寝時間が遅くなってしまいます。子どもの集中力を妨げたくない気持ちと、早く寝てほしい気持ちで葛藤します。

子どもは好きなことに夢中になると呼びかけても返事がありませんし、それこそ寝食を忘れて没頭しますよね。その集中力は素晴らしいものがあります。神々しさすら感じます。そしてまわりの大人はできるだけその時間を壊さないように大事にしてあげたいと思うものです。

このお子さんはお絵描きに夢中なようですが、子どもによっては遊びに夢中になったり、本を読むことに夢中だったり色々あります。そのまま続けさせてあげたい気持ちは山々なのですが、そうすると子どもの睡眠時間が削られ、最悪なコンディションで次の日を迎えなければなりません。やはり寝る時間は毎日一定であることが子どもの健康には望ましいです。

子どもにとって途中で集中を断ち切れられ、いきなりお布団に入って寝るとするのは難しいことだと思います。お布団に入るまでに毎日決まった順番でこれをするといったようなものがあると、寝ることへの移行が少し楽になるのではないのでしょうか。寝る時間が近づいてきたら、ゆっくりと寝るための準備に入っていけるのが良いですね。



うちのおべんとう

うちはうち
教えて
日々のお弁当

お 弁当作りは幼稚園時代からかれこれ丸9年。動きがスローモーな私、当日の朝全部作っていたらきっと毎日遅刻。常備菜は欠かせません。お弁当作りの悩みはおかずがうまく詰められないこと。なんだかあまり美味しそうに見えないのです。ある朝、台所にソロリとやってきた娘。黙々と手際良く詰めている…お、美味しそう！そうか色のバランスと立体感が大事なのね！仕上がりに満足したのか楽しかったのか、明るく朝毎朝嬉々として台所に立つように。詰めるほかにもおかずのリクエストをしてくれたり、玉子焼きを焼いたり、時には前の晩にお弁当の本を見て一品二品作ることも。日々の学びで養われたのかしら、思うように動く手を持っていて羨ましいなあ。丁寧にするこの大切さを娘の姿から教わりました。もうすぐ並びそうな肩、真剣な横顔に小さかった頃の姿が重なり、今朝もウルッとする私。二人肩を寄せてお弁当を作る時間はかけがえないひとときです。

娘台所に来たる、
また楽しからずや

7年生保護者母



こどもと食べたい 季節のレシピ



夏の恵み 黄色のポタージュ

大地の力をしっかり受け取ったオーガニックのお野菜を使い、その内側にあるお味を丁寧に引き出してあげたら、お水とお塩だけでびっくりするほど滋味深い、甘くて美味しい細胞喜ぶスープができます。

材料 (2~3人分)

- かぼちゃ 1/6カット
- にんじん 1本
- とうもろこし 1/2本
- 天然塩

作り方

- 野菜を大きめにごろんと切る。とうもろこしは実を外す。
- きるだけ厚手のお鍋にお野菜ととうもろこしの芯を入れ、お水をお野菜の半分くらいの高さまで入れる。
- お塩をひとつまみ加え、蓋をして中火にかける。蓋がカタカタいい始めたら弱火にする。時折水がなくなっていないか確認しながら30分ほどコトコト煮込む。
- 後にミキサーにかけられるくらい少し水分をお鍋に足し、時間があればもうひとき火を止めて置いておく。
- とうもろこしの芯を抜き出し、他を水分ごとミキサーにかける。
(水気が少なければミキサーが回るくらいまで少しお水を足します)
- お鍋に戻し、いただきやすいゆるさになるまでお水を足して温め、お塩を加えて好みのお味に調整する。
- 豆乳や牛乳をポタリとたらしたり、ハーブをあしらったりするとぐんと美味しくなります！

POINT

・お野菜をできるだけ大きく切ること、じわじわとお味を引き出します。

3年生保護者 自然食カフェオーナー



<p>第1回</p> <p>入学・転入をお考えの方必須</p> <h2>学園説明会</h2> <p>2022年 6月4日(土) 要予約</p> <p>愛知シュタイナー学園について広く知っていただくため、説明会を開催します。入学や転入をお考えの方だけでなく、シュタイナー教育に興味をお持ちの方もご参加いただけます。</p> <p>詳細・お申込み・お問い合わせは愛知シュタイナー学園公式Webサイトをご覧ください。</p>	<p>第2回</p> <p>両方参加またはどちらかの参加でも</p> <h2>見学会・体験授業</h2> <p>2022年 8月28日(日) 予約不要 要予約</p> <p>《見学会》教室や児童生徒のノート、作品の展示をご覧いただけます。 《体験授業》普段子どもたちが受けている授業の一部を体験していただけます。 【大人対象】 保護者、生徒による食品・手仕事品、書籍等の販売も行います。</p>
---	---

洗濯洗剤の量り売りで SDGs!

送迎時などにパッと必要だけお得に買えて、詰替パックのプラゴミ削減にもなる。しかも環境にやさしい生分解する洗剤。愛知シュタイナー学園は洗剤の量り売りを通じてSDGsに取り組んでいます。小さな取り組みですが、父母はもちろん生徒たちにも様々な社会課題への意識が芽生えるきっかけとなっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel & Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス

